

授業科目 病態運動学

【担当教員名】 高木 昭輝		対象学年	3	対象学科	理学
		開講時期	後 期	必修・選択	必 修
		単位数	1 単位	時間数	3 0 時間
<p>&lt;一般目標：G I O&gt;</p> <p>理学療法学が対象とする症候群や疾患が呈する機能障害に由来する動きを病態運動学という概念から考え、理学療法学的治療学としての機能障害回復学へと関連付けて考えることができる。</p>					
<p>&lt;行動目標：S B O&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病態運動学の概念を機能障害学との関係で説明することができる。</li> <li>2. 身体の形態による運動障害について例を挙げて説明することができる。</li> <li>3. 末梢神経障害による病態運動を例を挙げて説明することができる。</li> <li>4. 筋原性の病態運動を例を挙げて説明することができる。</li> <li>5. 中枢神経系障害の病態運動を例を挙げて説明することができる。</li> <li>6. 実際の病態運動学はさまざまな原因や症候を呈することを例を挙げて説明することができる。</li> </ol>					
回数	授業計画又は学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 又は備考・担当教員		
1	オリエンテーション（病態運動学の概念と機能障害回復学との関係）	1	講義		
2	身体の形態に由来する病態運動学 1	1, 2	講義		
3	身体の形態に由来する病態運動学 2	1, 2	講義		
4	身体の形態に由来する病態運動学 3	1, 2	講義		
5	末梢神経障害による病態運動 1	1, 3	講義		
6	末梢神経障害による病態運動 2	1, 3	講義		
7	筋原性の病態運動 1	1, 4	講義		
8	筋原性の病態運動 2	1, 4	講義		
9	中枢神経系障害の病態運動 1	1, 5	講義		
10	中枢神経系障害の病態運動 2	1, 5	講義		
11	中枢神経系障害の病態運動 3	1, 5	講義		
12	呼吸や摂食・嚥下の障害を病態運動学の観点から考える。	1, 2, 3, 4, 5	講義		
13	姿勢制御や運動制御を病態運動学の観点から考える。（復習とまとめ）	1, 2, 3, 4, 5	講義		
14	対象者を総合的に考える。（復習とまとめ）	1, 2, 3, 4, 5	講義		
15	期末試験		総括的試験		
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>	
教科書	なし。プリントなどを配布する予定。				
参考書	神経系のリハビリテーション 多重感覚治療法：Shereen D. Farber著、平山義人 鷲田孝保監訳：協同医書：1987年（図書館）				
その他の資料					
【評価方法】	【履修上の留意点】				
期末試験、授業貢献度、発表などを総合的に評価する。	授業に対して受身にならないでほしいと思います。				